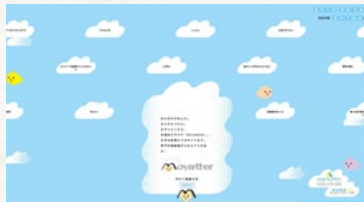


どんな悩みにも応えてくれる、お悩み

クラウド「Moyatter」 クリエイティブボランティア

博報堂ソーシャルクリエイティブクロス

仕事や家庭の悩み、DV・性暴力、セクシュアルマイノリティ、貧困、自殺念慮など、あらゆる悩みにワンストップで24時間電話で相談できるサービス「よりそいホットライン」。一般社団法人社会的包摂サポートセンターの運営する本サービスの電話のつながりにくい状態を緩和する補完装置を東京大学の学生エンジニアとともに博報堂のクリエイターが開発しました。「相談内容の顕在化」を意識し、悩みをオープン化することにより、孤立しがちな当事者の気持ちを楽しにして、アクセスする勇気のない人も、他人の悩みに触れることで、気持ちのもやもやを解消できる、そんなサービスを目指しました。2013年に公開し、約26,000件の相談が寄せられています。

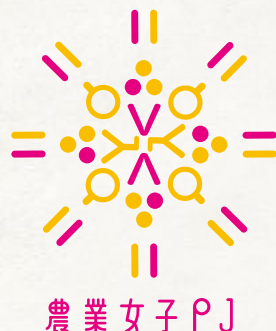


農林水産省が推進する 「農業女子プロジェクト」のロゴマーク制作

クリエイティブボランティア

博報堂

女性農業者の力で農業界を元気にすることを目的に、2013年11月にスタートした「農業女子プロジェクト」。農林水産省自らが事務局を務め、自動車や化粧品、出版などのバラエティ豊かな20を超える企業と全国の農業女子メンバーが商品開発や情報発信など多様な取り組みを進めています。今回は、事務局からの依頼を受け、この幅広い活動のシンボルとなるロゴマークを地図記号の「田」や「果樹園」などをモチーフに制作しました。ウェブサイトやFacebookをはじめ、このプロジェクトの成果として開発されたカラフルな軽トラックなど、さまざまな場面でロゴが活用されています。



アーティストとテクノロジストをつなぐ

KAKEHASHI クリエイティブボランティア

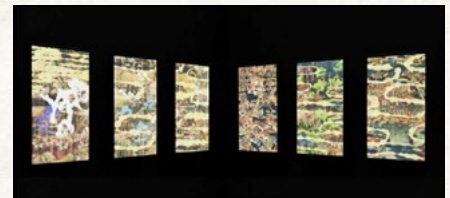
大広KAKEHASHI PROJECT

コンピュータグラフィックス、人工知能、インタラクティブテクノロジーなどを駆使したメディアアート作品は、すでに半世紀の歴史をもち、海外ではアートとテクノロジーの両側からメディアアートを検証する活動が根付いています。

一方、日本では表現者と、研究者たちが基礎研究情報を共有するための場が少なく、経済活動の中にメディアアートが組み込まれる素地がないことから、一般の方がまだメディアアートを身近に感じる状況ではありません。

大広は、大学教授、アーティスト・キュレーターの方々と共同で、「KAKEHASHI PROJECT」を立ち上げました。

アーティストとテクノロジスト、才能と技術、ナレッジとビジネス、日本と世界をつなげる未来への「懸け橋」の一助となるべく、メディアアートに関するさまざまな活動機会の創出を仕掛けています。



チームラボ「花と屍 十二幅対」

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ ジャパン主催事業の広報サポート

クリエイティブボランティア

博報堂

国内の200を超える企業・団体が署名するCSRネットワーク組織で、国連ローカルネットワークであるグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの広報委員会をサポートしています。

2014年は日中韓が持ち回りで開催する国際会議「日中韓ラウンドテーブル」の日本における開催年（2014年8月）にあたり、この国際会議の広報を担当し、ポスター、チラシを制作しました。

「日中韓ラウンドテーブル」は、世界のものづくりの中心となる3カ国がお互いのグッドプラクティスを学び、ネットワークの強化を図る会議体です。



「TAP PROJECT JAPAN」 ユニセフと協働したグローバル課題の コミュニケーションサポート クリエイティブボランティア

博報堂 / HAKUHODO DESIGN / TBWA\HAKUHODO /
博報堂プロダクツ / 博報堂アイ・スタジオ / オズマビーアール

「TAP PROJECT」は、無料で提供される飲食店などの水に対して募金をすることで、世界の子どもたちに清潔な水を届ける取り組みです。2009年から博報堂グループの有志メンバーは、日本ユニセフ協会とともに、活動を展開しています。

2014年度は飲食店での募金活動のほかに、水の日である8月1日から1週間、巨大募金箱「みんなの募金箱」を開設。2014年10月10日集計時点で募金額は175万8,851円となりました。募金はすべてユニセフが行う現地での支援活動に活用されます。



博報堂の教育プログラム 「H-CAMP」 教育

博報堂

博報堂は「粒ぞろいより、粒違い」を人材育成方針に掲げています。子どもたちに、楽しみながら自分の個性の可能性に気づいてもらえればと考え、「H-CAMP」というオリジナルのキャリア教育の取り組みを進めています。「H-CAMP」は中学校・高校からの企業訪問受け入れに対応している「企業訪問-CAMP」と、博報堂オリジナルの個人参加型ワークショッププログラム「OPEN-CAMP」の2つのプログラムで構成されています。

2014年度は「企業訪問-CAMP」に45校632名、「OPEN-CAMP」には140名（10回開催）の中高生が参加しました。



H-CAMP
Hakuhodo, Communication, Advertising, Marketing, People

ネットの楽しさを伝える 「世界とつながる！子どものための “けんさく”きょうしつ」 教育

アイレップ (博報堂DYメディアパートナーズグループ)

アイレップでは、小学生を対象に「“けんさく”教室」を不定期で開催しています。デジタルマーケティング領域における知見を活かした出張授業も3年目を迎え、これまで山形の小学校や都内の複数個所の学童保育で開催しました。子どもたちの早期リテラシー育成に貢献し、検索を通じたインターネットの楽しさと同時に怖さも伝えることで、保護者の方々からも好評をいただいています。



～知見をわかりやすく伝える最高の鍛錬の場～ 社員価値開発プログラム「大広創塾」 教育

大広創塾

「大広創塾」は個々の社員が日々獲得している経験と知識をかくはん（かくはん）
攪拌する場です。「社員全員講師」を基本思想とし、講師を担当する社員が、自らの経験をいかにわかりやすく人に伝えるかという工夫をし、思考を整理し、研修を実施します。研修の場は社内にとどまらず、社外への講師の派遣も積極的に実施しています。2014年度は中央大学法学部「広報・広告論Ⅰ・Ⅱ」に派遣し、広告コミュニケーション・マーケティングに関する講義を行いました。



広告を通して社会や コミュニケーションを学ぶ 教育

博報堂

法政大学社会学部特別講座「コミュニケーション・デザイン論」は、2009年に始まった博報堂の寄付講座です。広告を通して社会やコミュニケーションが学べる内容で、講義は広告の制作プロセスになぞらえ、発見と洞察→仮説構築→共創と創発→具体化と伝達（プレゼンテーション）の4ステップを、講師やスタイルを変えながら進めます。

2014年度は、全14講座を実施し、博報堂からは7名が講師として参加しました。



ミライの社会を創造する力を養う 教育

読売広告社

武蔵野美術大学空間演出デザイン学科で、自身の作品（コンテンツ）をどのように創り、人々に伝え、分かち合っていくかを講義しています。コンセプト創りから、撮影・編集・発表までを約1分間のフィルム制作を通じて講義しています。また、東京工科大学メディア学部においては、広告の基礎から応用までを学年別に講義。最終学年の4年生には「ミライの広告プロジェクト」と題し、2020年までの5年間を利用した社会に役立つコミュニケーション・デザインを制作、卒業論文として発表してもらいます。



講義を通してマーケティングに 興味を持ってもらう 教育

ショッパーインサイト（読売広告社グループ）

玉川大学経営学部で「消費者行動論」の講義を担当しています。本講義の狙いは、消費者行動の理論を学び、どのようにマーケティング活動へ活かされているかを明らかにすることです。そのため、ケーススタディを積極的に紹介しており、例えばある飲料の広告戦略では、多属性態度モデルを用いて説明しました。消費者の関心を高めるさまざまな広告・マーケティング戦略を学び、マーケティング活動に興味を持っていただくことを願っています。



スポーツマーケティングを中心とした広告論

教育

博報堂DYメディアパートナーズ

順天堂大学より、スポーツ健康科学部学生に向け、現場に近い目線で広告とスポーツについて語って欲しいという相談があり、2014年度、スポーツマーケティングを中心とした広告論講座を13回担当しました。広告の基礎知識に始まり、企業がスポーツをどのようにマーケティングに活用しているのかを、実例を交え講義しました。スポーツビジネス及び広告に携わる人材の育成に貢献できるよう願っています。

中学生の職場体験に関する取り組み 教育

データスタジアム（博報堂DYメディアパートナーズグループ）

データスタジアムでは、近隣の中学校からの「職場体験」の受け入れを行っており、簡単な業務紹介の後にスタッフと同じ仕事を体験してもらいます。データスタジアムオリジナルのシステムを使用し、野球やサッカーのデータ入力・分析を行うもので、最近是他県の中学校から、修学旅行での職場体験学習の一環としての受け入れも実施しています。「スポーツに関わる仕事」は、プロの選手やマスメディアではありません。「こんな仕事もあるんだ」と知ってもらうことで、中学生の皆さんの将来を考えるきっかけになればと考え、毎年1回実施しています。